

伊豆・脱化学物質コミュニティー

1. 紹介と研究概要

中井 里史*

keywords : 化学物質過敏症、転地療養、化学物質濃度測定、健康調査

1. はじめに

静岡県伊豆市に化学物質過敏症患者のための療養住宅(脱・化学物質コミュニティー、あいあい姫之湯)が新たに建設された。この住宅は、NPO 化学物質過敏症支援センター(CS支援センター)が主体となって作った永住可能な療養住宅である。本報では、このコミュニティーのポリシーや概要などを紹介するとともに、今後実施していく環境測定調査および健康調査の概要を紹介する。

2. 脱化学物質コミュニティーの概要

(1) 目的

転地療養 : 化学物質をできるだけ減らした環境での転地療養により、化学物質過敏症などの症状の軽減をはかること。

化学物質に依存しない生活にあり方の実践 : 化学物質過敏症発症者、および発症していない者が協力して化学物質に頼りすぎない暮らし方を探り、実践すること。

(2) 建物

建材などへの化学物質の使用・汚染を可能な限り避け、風通しが良い在来工法による木造アパート(図1)



図1 脱化学物質コミュニティー(あいあい姫之湯)

一人用4室(洋室約8畳、物入れ、湯沸室、シャワー室、脱衣・洗面所、トイレ、別棟の厨房棟)

家族用4室(洋室約6畳×2、洋室約5畳×1、台所、シャワー室、脱衣・洗面室、トイレ、物入れ)

内装はイタヤカエデのフローリング、漆喰塗りの壁、杉版の天井。なお、一人用、家族用ともに、“洗える”タイプの部屋を一室用意してある(大理石の床、ホーロー鋼板の壁と天井。家族用は居室の一室のみ)(図2, 3)

なお、この他に共用温泉棟1棟、自費建設住宅4棟もある。

(4) 入居資格

- ・ あいあい姫之湯の目的に賛同できる
- ・ 症状改善、または症状悪化防止へ意欲的に取り組む意志がある
- ・ 診断書を持っている
- ・ ご家族や親類等の同意がある
- ・ 他の居住者と協力できる
- ・ 契約と利用規則を守る
- ・ 症状の記録などに協力できる

3. 研究概要

各室内、および入居者を対象として、転地療養の効果を探ることを目的として、今後約1年間にわたり以下のような測定を行うことにしている。

(1) 入居前自宅室内環境調査

入居する前の自宅の室内環境測定を行う。

(3) 部屋数・内装など

測定項目 : アルデヒド、VOC

* 横浜国立大学大学院環境情報研究院 助教授・保博

Assoc. Prof., Graduate School of Environment and Information Sciences, Yokohama National University, Dr. Hlth. Sci.

測定方法：パッシブ法により、連続1週間の測定を実施する

測定箇所：寝室、屋外、個人曝露量（希望者のみ）

その他の項目：

自宅の室内環境などに関する質問紙調査

QEESI 質問票

フェーススケールシート（日々の気分を調べる）

(2) 入居時調査票調査

入居直後の住宅および周辺の第一印象を、質問票により調べる。

(3) 入居後室内環境等調査

入居中の室内環境および健康状況の変化を調べる。

環境測定

測定項目：アルデヒド、VOC、温湿度

測定期間：1 ヶ月に一回、パッシブ法により連続一週間の測定を実施する

測定箇所：居室（家族用は2室） 個人曝露量（希望者のみ） 屋外（コミュニティで1カ所）

健康調査

調査項目：フェーススケール、QEESI 質問票（簡易版） 重心動揺

調査期間など：フェーススケールおよび質問票は、環境測定期間中に実施する。重心動揺検査は、アニマ株式会社製グラビコーダを用い、2 ヶ月に一度実施する。

(4) 退去時調査

途中で退去された方に関しては、退去時に住宅や周辺環境に関する退去時までの印象に関する質問票調査を行う。さらに、退去後も、療養効果の維持の程度などを把握するために、入居者と同じスケジュールにて自宅環境測定、フェーススケール、QEESI 質問票を用いた調査を実施する。

4. その他

また、竣工直後の室内および屋外環境測定を行っている。この測定の目的は、もっとも濃度が高い時期の濃度状況を把握し、今後の室内環境メンテナンスに役立てることにある。これ以降に濃度が高くなるのであれば、季節変動の影響も無視はできないものの、持ち込みの影響と考えることができる。と考える。

竣工直後の測定に関する詳細および結果に関しては、第2報を参照してほしい。

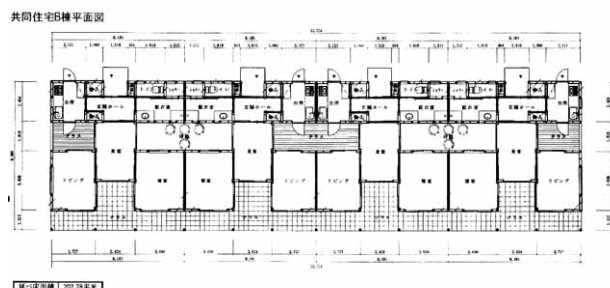


図2 一人用居室

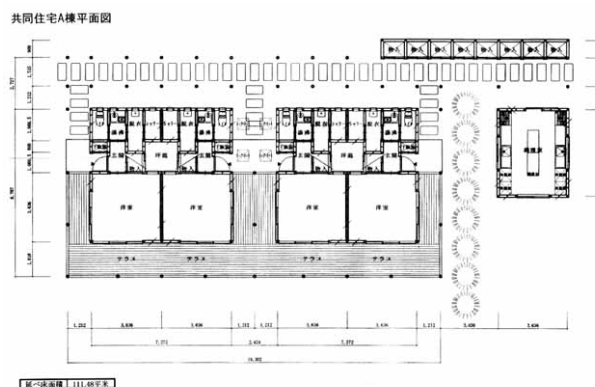


図3 家族用居室